

定例市政記者クラブ・市長懇談会（9月分）の結果について

日時 平成24年8月29日（水）午前11時～午前11時30分
場所 市役所2階第3委員会室
出席 市政記者クラブ12社

会見内容

1. 話題提供（5項目）

1. 平成24年度 釧路市防災総合訓練の実施について

- 今年度の釧路市防災総合訓練を明日、8月30日（木）に実施いたします。今回の訓練には56機関1,600人の参加をいただき、56項目の訓練を実施いたします。
- 釧路地区では、午前中に 住民参加による津波避難訓練と西港区でタンカー事故対策訓練を実施し、午後からは、釧路港東港区耐震旅客船ターミナルを本会場として海上訓練と陸上訓練を実施いたします。
このほかに、別会場として阿寒地区で地上訓練を、音別地区で地上訓練、津波避難訓練を実施いたします。
- 今年度の訓練の特徴は、午前中の津波避難訓練を北海道と共同で実施し、去る7月31日（火）に北海道が実施した「北海道防災総合訓練の図上訓練」の成果に基づき、釧路、根室、十勝管内の沿岸市町村が同時進行で津波避難訓練を行います。
- また、この津波避難訓練に合わせて、大津波によって電力、通信が壊滅状態となった場合を想定し、高台の釧路市生涯学習センターに防災関係行政機関の職員が参集して「災害対策合同連絡室」を設置し、発災直後の災害情報の収集と共有化の訓練を実施いたします。
- 午後からの釧路市主催の訓練では、東港区の耐震旅客船ターミナルと幸町緑地を中心に、海上自衛隊や海上保安部の大型艦艇などに参加をいただき、東日本大震災の教訓を踏まえた各種の防災訓練を実施いたします。

2. 市有施設への海拔表示について

- 本市では、津波避難誘導対策の一環として、市民の皆さんや観光客の皆さんが迅速に避難行動をとるための目安となる海拔表示シートを、市が保有する施設に表示することといたしました。

- 海拔表示シートは、A3サイズで、津波緊急一時避難施設、指定避難施設のほか、児童館、保育園、地区会館など、阿寒地区を除く市内174カ所に8月31日(金)から掲示を開始いたします。

また、本年度予定しておりました津波浸水が想定される区域への海拔表示版の設置につきましては、国や北海道が国道、道道の道路標識への海拔表示を進めていることから、現在、統一デザインとすべく、準備を進めているところであります。

3. 北海道火山防災サミット2012 in 雌阿寒岳シンポジウムの開催について

- 北海道火山防災サミット雌阿寒岳地方実行委員会主催による「北海道火山防災サミット2012 in 雌阿寒岳」のシンポジウムが、9月22日(土)午前10時から阿寒湖まりむ館において『火の山とともに…「未来の君たちへ、今、伝えたいこと」』をテーマとして開催されます。

- 火山防災サミットは、火山災害の軽減を共通の目標として、関係機関の横断的な連携推進と火山災害の予防減災に向けた取組み、さらには、住民と行政の連携構築による地域防災力の向上などを目的として各火山の地元で順次開催されています。

平成17年の札幌、平成18年の胆振(樽前山麓)、平成20年の十勝岳に続き、今年の雌阿寒岳での開催が4回目となります。

- これまで、7月21日(土)の「火の山のキッズ登山学習会」を皮切りに「企画巡回展示」「火の山を探るサミット登山会」など、各種イベントを開催しております。

- 本サミットの中心事業として、また雌阿寒岳サミットの締めくくりとして「シンポジウム」が開催されます。当日は、火山防災の関係者や有識者が一堂に集い、北海道の火山防災の未来について、記念講演、基調講演、パネルディスカッションをはじめ、ポスターセッションや子どもたちによる取り組みの発表なども予定されております。

現在も活動を続けている雌阿寒岳の恵みと火山活動の歴史を知ること、雌阿寒岳と共に豊かで安全に暮らしていくことを考えるきっかけとなると期待しているところであります。

4. マリモ特別天然記念物指定60周年記念事業国際シンポジウム、市民講演会の開催について

- 「阿寒湖のマリモ」は、昭和27年にタンチョウとともに、国の特別天然記念物に指定され、今年は、指定60周年を迎え、さまざまな記念事業を開催しています。

- 球状マリモが生息するのは、世界で阿寒湖とアイスランドのミーヴァトン湖の二つに限定され、最新の研究で世界のマリモの起源が日本列島であるという発表もあり、「阿寒湖のマリモ」は世界的に注目を集めています。
- 市では、節目の年となる60周年を記念して、9月にシンポジウムと講演会を開催します。
 国際シンポジウムは、9月8日（土）午後1時から阿寒湖アイヌシアター「イコロ」で、「マリモの価値を問い直す」をテーマに、元環境省自然環境局長の基調講演をはじめ、アイスランドとニュージーランドの研究者から、世界的な観点から見た阿寒湖のマリモの現状と価値、今後の保護・保全活動などについて意見を交わすシンポジウムを開催します。
 また、翌9月9日（日）午後1時から市立博物館講堂で、「世界のマリモ、阿寒湖のマリモ」をテーマに、シンポジウムに参加した海外の研究者による市民向け講演会を開催します。球状マリモを産するアイスランド・ミーヴァトン湖の自然や保全を目指した阿寒湖との国際協力、ならびに日本列島を起源としてマリモが世界に広がっていったと考えられる最新の研究成果などをご紹介いただく予定です。
- マリモが生育する阿寒湖の世界自然遺産候補地選定に向けた機運が高まっています。是非、この機会により多くの市民の皆様にもご参加いただき、「阿寒湖のマリモ」をもう一度、見つめ直していただければと考えております。

5. 釧路市役所庁舎を利用した広告事業の実施について

- 市では自主財源確保の施策のひとつとして、有料広告事業を実施しております。
 その取り組みの一環として、市役所庁舎を利用した広告事業を募集いたしましたところ、「釧路市本庁舎における庁舎案内および広告付き周辺案内図の設置」について、名古屋市に本社を置く「表示灯株式会社」の札幌支社から提案があり、5月29日に開催いたしました選定委員会の審査を経て、事業実施を決定したところであります。
- この事業は提案事業者が市役所本庁舎の1階に広告付きの周辺案内図および庁舎案内図を設置することにより、一定の広告料を市に支払うもので、この事業者は全国の自治体において、同様の広告事業を取り扱っており、道内では北海道、札幌市等、11自治体にて実施しております。
- 事業開始は9月1日（土）を予定しており、8月30日（木）に本体の設置を行い、9月3日（月）に本格稼働開始となります。表示面にはLEDバックライトが点灯する仕様となっております。

■ 事業の効果額といたしましては、行政財産の使用料を含めて年額約43万円を見込んでおります。

■ なお、案内図等の作成・運搬・取付工事費約250万円は提案事業者が負担し、また、毎年4月1日の年度替わりに合わせて周辺図や庁舎案内図の更新も行っていただくこととなっております。

庁舎案内図は、ほぼ無償提供となることも含めると、広告料収入のみならず、市にとって大変有益な事業になるものと考えております。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ 海拔表示板については、浸水予想区域内の市道に設置されるものと思いますが、いつ頃、何カ所に設置するのですか。

(市長)

- ・ 予算上は約260カ所分を計上しております。ただし国や北海道で示している統一的な仕様で作りますと、予定より費用がかかりますので、これより数は若干減るものと思われま。

時期については、国や北海道の動きを確認しながら、年内を目途に実施したいと考えております。

(質問)

- ・ 総合防災訓練について、どこまで実践的な訓練にするかが大きな課題だと思いますが、今回はどういったところに気を付けて取り組むのですか。

(市長)

- ・ 今回の訓練は、北海道から示された新しい津波シミュレーションの内容を可能な範囲で盛り込んで行いますが、実態として、全ての地域において新しい津波シミュレーションに基づく被害状況を想定したものにはなっておりません。避難を軸としたソフト対策ですから、大川、入舟地区などについては避難場所があるので、避難を実施します。中心部や西部地区については、津波被害を受けてから48時間後に海上自衛隊の「しもきた」等による物資等の支援や、医療活動等の支援をいただくことを想定した訓練として進めております。

また、どのような状況になっても通信・連絡を取ることが重要ですので、阿寒・音別地域を含めて連携・連絡体制を取るような訓練を行います。

(質問)

- ・ 従来の浸水区域では避難訓練をして、新しい津波シミュレーションによって新たに浸水予想区域となった区域で避難訓練をしないというのは、せっかくの新しい津波シミュレーションを生かしきれていないと思うのですが。

(市長)

- ・ 現在準備を進めているところですが、中心部や西部地区の対策をどのように進めていくかはまだ作業中ですので、そういった地区については、津波が引いた後の対応という形でやらざるを得ないというのが実情です。

(質問)

- ・ 来年度以降は対応可能なのですか。

(市長)

- ・ はい。さまざまな支援が届き始めるまでの48時間、住民をどう守るかが重要ですので、防災計画見直しの取り組みを精力的に進めていながら、今後、地域防災計画を含めた中で全市的な訓練に対応していくことが喫緊の大きな課題だと思っています。

(質問)

- ・ 来年は、これまで浸水区域に入っていなかったが新しい津波シミュレーションにより浸水区域になった地域の住民についても避難訓練をするというお考えですか。

(市長)

- ・ 今後は新しい津波シミュレーションに基づいた避難を軸としたソフト対策が中心になってきます。それに伴い、例えば実際に避難に車を使用した場合の道路の状況はどうなのかといったことがまとまっておりませんので、そういったところを中心的行っていきたいと考えております。

新たな津波シミュレーションにより浸水区域が極めて広くなり、抜本的な見直しをしていかなければなりませんので、作業を進めてそういった訓練が可能な状況に持っていきたいと考えております。

(質問)

- ・ 今回避難訓練を行う橋南地区や音別地域については、徒歩での避難になるのですか。

(防災危機管理主幹)

- ・ 車両を使った訓練も行います。橋南地区の車については旧東栄小学校グラウンドへ避難していただきます。

(質問)

- ・ 従前より津波避難は徒歩が原則と言われてきましたが、車の使用を想定される意義をお聞かせください。

(市長)

- ・ 本来の訓練の意義というのは、さまざまな状況を想定して訓練を実施し、課題は次に活かしていくとともに、市民の皆様にそういった意識を持っていただくというところにあると思っております。今回も新たな津波シミュレーションを受け、さまざまな訓練を行っていく中で、新たな課題が出てきて、その課題への対応が必要になってくると思います。現実的に車を使ったときにどうなるのかといったことを検証し、得られたデータを各地域での対策に結びつけるような、シミュレーションとしての位置づけも含まれると考えております。

(防災危機管理主幹)

- ・ 補足としてご説明しますが、今回の避難訓練については、北海道主催で7月31日に行われた図上訓練において、津波の際の車による避難が課題として挙げられたこと等を受けて行うものです。

(質問)

- ・ 橋南地区において車で避難する場合はロータリーを経由する場合がありますか。

(防災危機管理主幹)

- ・ 米町経由での避難が多いものと思われまます。

(質問)

- ・ 今回の防災訓練では、最悪の事態を想定して、新たに「災害対策合同連絡室」が設置されるとのことなのですが、何時頃に開設される予定なのでしょうか。

(防災危機管理主幹)

- ・ 10時40分頃までに各機関から集まる想定になっております。

(質問)

- ・ 「釧路Oh!!さかなまつり」についてお聞きします。
一昨年はサンマ千食の確保が困難なのではないかとの懸念がありましたが、今年についてはそういった話題が聞かれませんでしたので、心配はないということなのでしょうか。

(水産統括監)

- ・ 全体的に漁自体がいいとは言えませんが、本日も80t程度水揚げされており、

先週から一定程度の水揚げが確保されておりますので、今週末の開催に当たっても千食の提供は可能であると考えております。

(質問)

- ・ 一昨年よりは漁の状況はいいのでしょうか。

(水産統括監)

- ・ 漁業情報サービスセンターによりますと、8月20日現在では昨年や一昨年に比べ良くありませんでした。しかしながら、先週末から今週にかけて100t前後の水揚げがありますのでこれが続けばと考えております。

(質問)

- ・ 特例公債関連法案を巡る国会の先行きは不透明であり、国は法案が成立しなければ補助金等の予算執行をしない見通しとなっておりますが、そうした場合に釧路市は影響を受けるのでしょうか。

(総合政策部長)

- ・ 現段階では特段そういった相談は寄せられておりません。